



とうほう地域総合研究所
エコノミスト
木村 正昭

「LIVE AZUMA」開催による経済波及効果 ～2025年は過去最大となる2,566百万円の効果～

<要 旨>

- 2022年から毎年10月に開催されている「LIVE AZUMA」は、2025年の来場者数が過去最高の約43,000人（入場無料エリア含む）に上り、今や東北最大級の音楽と食の野外フェスに成長している。
- その経済波及効果は2024年が2,115百万円、2025年が2,566百万円となり、福島県内に大きな効果をもたらしていることが確認できる。入場無料の「PARK LIFE」の存在が消費支出を高める効果につながっていると考えられる。
- 課題の検証・改善を重ねることにより、さらに成熟した音楽フェスとして県内外で認知度が高まるものとみられ、福島の風物詩として定着・発展していくことが期待される。

はじめに

「LIVE AZUMA」は、あづま総合運動公園（あづま球場）で例年10月に2日間開催される、東北最大級の音楽と食の野外フェスである。2022年に初めて開催され、多彩なジャンルのアーティストによるライブに加え、東北のグルメやアートを楽しめる、初心者やファミリーも楽しめるイベントとなっている。

今回、当イベントの更なる発展と、福島県内における今後の観光振興施策等へ資することを目的に、「LIVE AZUMA」開催が県内にもたらす経済波及効果の推計を実施した。

1. 「LIVE AZUMA」について

「LIVE AZUMA」はコロナ禍からの回復途上という難しい時期にスタートしたが、出演するアーティスト数や来場者数は次第に増加しており、10月に県内で開催される野外フェスとして定着してきている。名前には福島の地域を表す「あづま」が使われており、福島の新たな魅力を生み出すことで地域の発展につなげたいという思いが込められている。

120ブースを超えるフード & マーケットが出店する入場無料の「PARK LIFE」が併設されているのが特徴で、音楽だけでなく衣食住をも楽しむことができ、福島の食文化やクラフトの発信地となっている。また、福島市ふるさと納税の返礼品として入場券が採用されるなど、市外・県外からの寄附促進と来場者誘致に寄与している。

2025年の来場者数は過去最高の約43,000人（入場無料エリア含む）で、初年度2022年の2倍以上と

図表1 「LIVE AZUMA」の開催概要

開催年	日程	来場者数	出演アーティスト数
2022年	10/15～16	約21,000人	19組
2023年	10/14～15	約25,000人	26組
2024年	10/19～20	約37,000人	34組
2025年	10/18～19	約43,000人	50組

出所：LIVE AZUMA 実行委員会



なった。野外音楽フェスとしては、26年間開催されている宮城県の「ARABAKI」（2026年の来場者数：延べ40,000人）が東北最大級とされるが、「LIVE AZUMA」はそれに並ぶ規模にまで成長していることが確認できる（図表1）。

2. 経済波及効果推計の概要

今回の推計は、2024年及び2025年の直近2年分を対象とし、「LIVE AZUMA」開催に伴い支出される運営費と、2日間に来場する方が県内で行う消費支出という両面から経済波及効果を推計した。開催に伴い支出される運営費や来場者数に関しては、LIVE AZUMA 実行委員会の中心である福島テレビ(株)より提供を受けた資料に基づき設定した。

図表2 推計の前提条件

推計対象年	2024年及び2025年の直近2年分
推計内容	開催に伴い支出される運営費と、2日間に来場する方が県内で行う消費支出という両面から経済波及効果を推計
運営費・来場者数データ	LIVE AZUMA 実行委員会の中心である福島テレビ(株)より提供
来場者の消費額	観光庁「共通基準による観光客入込客統計」や「旅行・観光消費動向調査」、他の野外フェスにおける実績などを参考に算定
推計方法	運営費支出額及び来場者の消費額を基に、「平成27年（2015年）福島県産業連関表（39部門分類）」を用いて経済波及効果を推計

3. 推計の条件設定

（1）運営費の取扱い

- ① 「イベント運営直接経費」や「グッズ原価」は全額を計上。
- ② 大半が県外へ支払われる「アーティスト出演料」「著作権料」は県内への効果がないとみなし、運営費より除外。
- ③ 「スタッフ等人件費」のうち、家計調査の消費転換率を乗じて算出される金額を増加した人件費から消費に回される分として計上。
- ④ 「イベント運営直接経費」「グッズ原価」「スタッフ等人件費」から計上される金額を産業連関表に投入し経済波及効果を推計。
- ⑤ 数値の単位未満は四捨五入しているため、総数と内訳の計が一致しない場合がある。



図表3 運営費の取扱い方法

運営費項目	取扱い方法
イベント運営直接経費	全額を計上
グッズ原価	全額を計上
スタッフ等人件費	家計調査（福島市）の消費転換率を乗じ算出される金額を計上
アーティスト出演料	県外に出ていくものとして除外
著作権料	県外に出ていくものとして除外

(2) 来場者の消費支出額の設定

- ① 来場者を、チケット売上実績などを参考に「県内居住者・県外居住者、宿泊・日帰り」で区分（図表4）。
- ② 消費支出額単価は、観光庁のデータや他の野外フェスにおける実績を参考に設定。（2024年・2025年共通、図表5）
- ③ 来場者数に消費支出額単価を乗じて消費支出額合計を求め、2024年は1,767百万円、2025年は2,115百万円（図表6）。
- ④ 2025年は来場者数が6,000人程度増えたことに加え、消費支出額単価が大きい県外からの来場者割合が高まったこともあり、消費支出額合計は348百万円増加。

図表4 来場者の内訳 (人、%)

		県内		県外		合計
		宿泊	日帰り	宿泊	日帰り	
2024年	来場者数	4,715	15,635	7,363	9,287	37,000
	構成比	12.7	42.3	19.9	25.1	100.0
2025年	来場者数	4,433	14,915	10,380	13,272	43,000
	構成比	10.3	34.7	24.1	30.9	100.0

2025年は県外客が
上回る!!

【来場者の構成比】

2024年：県内55%、県外45%



2025年：県内45%、**県外55%**

図表5 消費支出額単価 (円/人回)

	県内		県外	
	宿泊	日帰り	宿泊	日帰り
消費支出額単価	70,000	32,000	78,000	39,000

消費支出額合計

= 来場者数 × 消費支出額単価

図表6 消費支出額合計 (百万円)

	県内		県外		合計
	宿泊	日帰り	宿泊	日帰り	
2024年	330	500	574	362	1,767
2025年	310	477	810	518	2,115



4. 推計結果

図表7 経済波及効果まとめ

2024年		(百万円、人)			
項目		経済波及効果（生産誘発額）			就業誘発者数
		運営費	来場者消費	合計	うち雇用者
① 直接効果		174	1,261	1,435	173
② 第1次波及効果		42	393	435	32
③ 第2次波及効果		32	213	245	18
総合効果(①+②+③)		248	1,867	2,115	224

2025年		(百万円、人)			
項目		経済波及効果（生産誘発額）			就業誘発者数
		運営費	来場者消費	合計	うち雇用者
① 直接効果		228	1,515	1,742	210
② 第1次波及効果		54	473	526	42
③ 第2次波及効果		42	256	297	22
総合効果(①+②+③)		323	2,243	2,566	275

(1) 「LIVE AZUMA 2024」の経済波及効果

運営費による経済波及効果（総合効果）は248百万円、就業誘発者数は25人、うち雇用誘発者数は20人となった。来場者の消費支出額は、観光庁「共通基準による観光客入込客統計」や「旅行・観光消費動向調査」、他の野外フェスにおける実績などを参考に1,767百万円と算出、このうち県内に影響を及ぼす金額（直接効果）は1,261百万円となった。来場者の消費支出による経済波及効果（総合効果）は1,867百万円、就業誘発者数は199人、うち雇用誘発者数は164人となった。

運営支出及び来場者の消費支出による経済波及効果は合計で2,115百万円、就業誘発者数は224人、うち雇用誘発者数は185人となった。2024年には来場者が3万人を超え、経済波及効果は初めて20億円の大台に乗ったとみられる（図表7、8）。

(2) 「LIVE AZUMA 2025」の経済波及効果

運営費による経済波及効果（総合効果）は323百万円、就業誘発者数は33人、うち雇用誘発者数は27人となった。来場者の消費支出額は、観光庁「共通基準による観光客入込客統計」や「旅行・観光消費動向調査」、他の野外フェスにおける実績などを参考に2,115百万円と算出、このうち県内に影響を及ぼす金額（直接効果）は1,515百万円となった。来場者の消費支出による経済波及効果（総合効果）は2,243百万円、就業誘発者数は242人、うち雇用誘発者数は198人となった。

運営支出及び来場者の消費支出による経済波及効果は合計で2,566百万円、就業誘発者数は275人、うち雇用誘発者数は224人となった。2025年は来場者が過去最高の約43,000人を記録し、経済波及効果は25億円を超える結果となった（図表7、8）。

図表 8 用語説明

直 接 効 果	ある産業の需要が新たに発生（新規需要）することによって、県内の産業部門に直接に生産を誘発する効果。
第 1 次 波 及 効 果	直接効果によって生産が増加した産業で必要となる原材料を満たすために、新たに発生する生産誘発のこと。
第 2 次 波 及 効 果	直接効果と第1次波及効果で増加した雇用所得のうち消費に回された分により、各産業の商品などが消費されて新たに発生する生産誘発のこと。
総 合 効 果	直接効果と第1次波及効果及び第2次波及効果の合計額。
就 業 ・ 雇 用 誘 発 者 数	生産誘発により、どれだけの就業（雇用）者数を誘発しているか表した理論値。時間外や機械化で対応するケースもあり、純増人数とは一致しないケースが多い。

5. 推計結果の考察

経済波及効果について、他の地域で開催されている野外音楽フェスと比較すると、宮崎県の「ひなたフェス2024」は56,000人の来場者で経済波及効果が3,270百万円、福井県の「ONE PARK FESTIVAL 2024」は27,000人の来場者で経済波及効果が1,320百万円などとなっている。基礎データや推計方法の違いなどから一概に比較はできないが、県外からの来場者割合が高まることで宿泊日数が増えるなど、経済波及効果が上積みされる傾向がみられる（図表9）。

「LIVE AZUMA」の場合、入場無料の「PARK LIFE」の存在などが来場者の消費支出を高める効果があると考えられる。2025年には県外居住者の割合が5割を上回ったとみられ、経済波及効果は2,566百万円と25億円を超えた。来場者の増加により2024年比では451百万円拡大しており、県内外における認知度向上により経済波及効果のさらなる拡大が期待される。

図表9 野外音楽フェスの経済波及効果比較

フェス名称	開催年	開催地	経済波及効果 (百万円)	来場者数	期間	備考
ももクロ春の一大事	2025年	新潟県	648	1.2万人	1日間	新発田市内の効果 2日間のうち1日が中止
ONE PARK FESTIVAL	2024年	福井県	1,320	2.7万人	2日間	県外居住者が6割以上
ひなたフェス	2024年	宮崎県	3,270	5.6万人	2日間	遠方からの来場が76%
LIVE AZUMA	2025年	福島県	2,566	4.3万人	2日間	県外居住者が55%

出所：各実行委員会の公表内容などから作成

6. まとめ

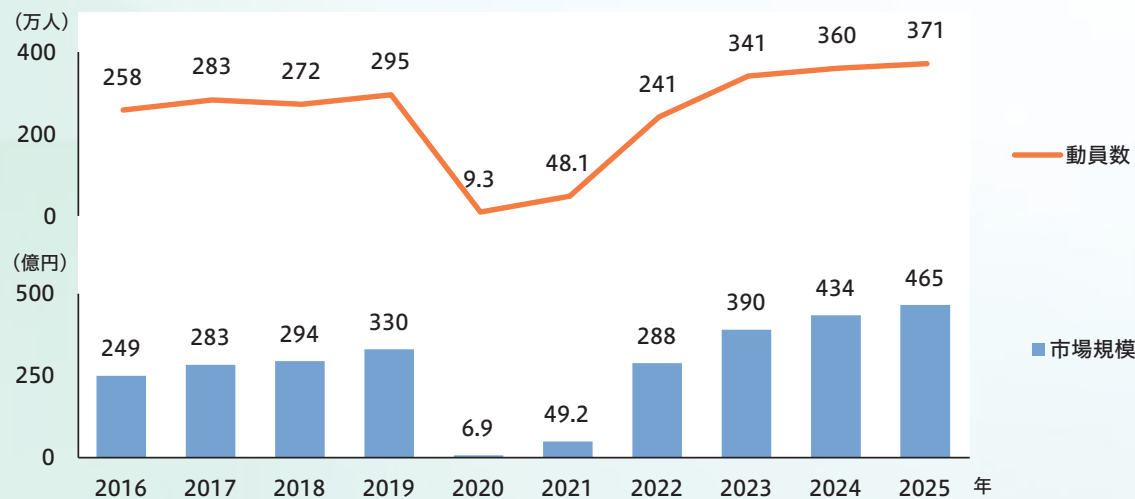
(1) 音楽フェスの市場規模は拡大見込み

ぴあ総研調べによる国内の音楽フェス市場規模は、2020年以降にコロナ禍で低下していたが、2023年にコロナ前を上回り、2025年には465億円（前年比+7.0%）となるなど、今後も拡大が見込まれる（図表10）。

拡大の要因としては、特定のアーティストを応援する「推し活」や、その時・その場所でしか味わえない体験を重視する「トキ消費」の定着が挙げられる。

また、1人当たり単価は、この10年間で9,651円から12,528円へと上昇しているが、物価や人件費の上昇などでチケット単価が高水準を維持しているだけでなく、高価格帯商品の導入やホスピタリティサービスの拡充など、来場体験の質を高める取り組みが進んでいることも、市場規模拡大の要因と考えられる。

図表10 国内音楽フェス市場規模と動員数の推移



出所：ぴあ総研

(2) 「LIVE AZUMA」のさらなる成熟に期待

近年は、大規模フェスが安定した人気を保つ一方、地域独自の特色を活かした地方発のフェスも増加傾向にある。多様な開催形態がフェス市場の成長を支えており、「LIVE AZUMA」の取り組みを後押しする流れとなっている。

さらに、夏場の気温上昇による熱中症リスクの高まりなどから、開催時期の見直しも進んでいる。例年10月に開催する「LIVE AZUMA」は、開催時期の点で強みを有していると言える。

一方、音楽フェスの課題として以下の点が挙げられる。

☆ アクセスの改善

- ➡ 車の渋滞緩和や CO₂ 排出抑制のため、シャトルバスの増便や公共交通機関の利用促進

☆ トイレの空き状況の可視化

- ➡ 「LIVE AZUMA」の場合、数は十分に用意されているが、一部のトイレの一時的な混雑を分散させるために ICT を活用し空き状況の可視化などを試行



課題については、参加者のストレスを減らし満足度を高めるための仕組みづくりが重要とみられる。アクセスやトイレの混雑などに関し、福島市郊外に位置する県営あづま総合運動公園内で行われる「LIVE AZUMA」では、一部に改善が必要とみられる点もあるが、概ねスムーズな運営が行われていると評価されている。

今年の「LIVE AZUMA」は10月17日・18日に開催される。既に公式サイトで出演アーティストの発表が進み、注目を集めている。課題の検証・改善を重ねることにより、さらに成熟した音楽フェスとして県内外で認知度が高まり、福島の風物詩としてさらに定着・発展していくことを期待したい。



「LIVE AZUMA」公式サイト <https://liveazuma.jp/>